

2025 年 10 月 5 日 聖霊降臨後第 17 主日配布 「主を喜ぶ」

今日の礼拝は神さまからの「信仰とは何か」という問いかけです。

第一朗読で預言者ハバククは、神さまにこう問いかけます。

「なぜ正しいことが行われないのですか？」

すると神さまは「時が来るまで待ちなさい。必ず正義は来る」と答えられました。

つまり信仰とは、

「神さまが必ず正しいことをしてくださると信じて、待ち続けること」

となります。

第二朗読ではパウロが、愛する弟子テモテに書いた手紙が読まれました。パウロ

にとってテモテは、自分の信仰を受け継ぐ人です。

「神さまからの恵みとあわれみと平和があるように」

パウロは、信仰は自分でがんばってつくる物ではなく、神さまからのプレゼント

だよ、と伝えています。私たちのマルチンルターはこの考えをさらに推し進めて、

恩寵義認＝（神の恵みによってのみ、罪人の私たちが「義いもの」と認められる）

を見つけ出しました。

そして今日のルカによる福音書では、弟子たちがイエスさまにお願いしました。

「わたしたちの信仰を増してください！」

でもイエスさまは、信仰は数を数えるみたいに「増える」「減る」ものではない、と教えられます。

ほんの少しでも信仰があれば、木に「動け！」と命じてもその通りになるくらい大きな力があります。

信仰とは、「あるかないか」、そこが大事なんです。

このところ日本では「宗教ってちょっと怖い」って思われがちなところがあります。1995 年の地下鉄サリン事件以来、このイメージを持つ人が多くなりました。カルトという言葉もニュースなどで、よく聞くようになりました。

2003 年に国立の一橋大学の裏で、カレー屋を営業しながら、三鷹のルーテル学院大学に入学し、私はキリスト教を学び始めました。翌年江本牧師と出会い、杉並教会に通い始めます。私の生活は、店・学校・教会の三つを、バイクで駆け回るものとなりました。

2007 年頃にカレー屋に来ていた学生から、インタビューの申し込みを受けました。そして信仰を持っている人として、研究会に呼ばれて、他の新しい宗教の人たちと一緒に話したことがあります。

その研究発表では、宗教を信じる人たちと、トランスジェンダーの人たちの生き方をテーマにしていました。

学生たちは「自分が信仰を持つとか、性別で悩むとか、全くありえない」と言っていました。

そこで私は「本当にそう思いますか？」と聞いてみました。

もしかしたら心の奥では、揺れたり悩んだりすることが、誰にでもあるかもしれないのに。

その時、「本当に信じて生きる人」のことを「True Believer（トゥルー・ビリーバー）」と呼ぶと知りました。

そして私は「絶対に愛のない人間にはならない」と決めました。

それから私にとって信仰は、

- * イエスさまからいただいた愛
- * イエスさまを喜んで賛美すること
- * そして周りの人に仕えること

となりました。

でも正直に言えば、私は人を傷つけてしまうこともあるし、愛をうまく表せない

ことも多いです。

それでも神さまはそんな私を愛して、守ってくださる。

だから私は「今日もなんとか生きよう」と思えます。信仰は私の中にいつまでも残る、決して消える事の無い光です。

最後に本日の詩編交読文を思い出しましょう。

今日の交読詩編4節に「主に自らをゆだねよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」とありました。しかしこれは『新共同訳聖書』特有の訳文であり、『聖書協会共同訳』では

「主を喜びとせよ。主はあなたの心の願いをかなえてくださる。」となります。

信仰によって、私たちはイエスさまを喜びとして歩んでいけます。

どんな厳しい時代でも、互いに助け合って、支え合って生きていきましょう。

アーメン。